



病気と向き合うサイトなら





気になる症状や病気、検診結果、病気の中身、治療の内容など、あなたの年齢や性別、状況に合わせた情報を提供いたします。


がんコンテンツ


 ▶ **気になる健康と病気**
がんがどんな病気なのか、病気を予防するためにどんな生活が望ましいかについて解説します。

 ▶ **健康診断の結果のチェック**
健康診断の結果などをご用意ください。指摘された異常をチェックしたり、理解を深めたりすることができます。

 ▶ **病気と診断された**
病気と診断され、これから治療を受けられる方が、納得して治療を受けられるようお手伝いをします。

 ▶ **治療を受けている**
現在治療を受けている患者さんやご家族の方を対象に、病気とつきあっていくためのポイントを整理します。

 ▶ **治療が終わったら**
がんの治療が終了した方を対象に、再発を予防するための生活の工夫や早期発見に向けた検査などをご紹介します。

 ▶ **病気とともに生きる**
がんと診断された方を対象に、がんによるさまざまな症状や不安に対して、専門スタッフがあなたをサポートする「緩和ケア」について解説します。

『胃がん治療を受けている』方を対象にした解説です。

—前編—

がん ホーム	気になる健康	健康診断の結果のチェック	病気と診断された	治療を受けている	治療が終わったら	病気とともに生きる
--------	--------	--------------	----------	----------	----------	-----------

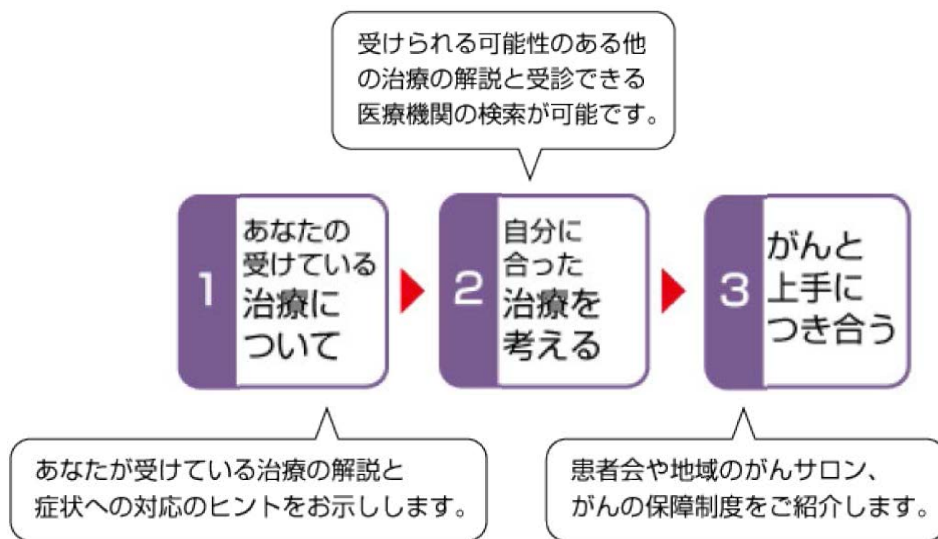


このサイトでできること



あなたががんとつきあっていくためのポイントを整理します

このPDFでは、現在がんの“治療を受けている患者さんやご家族の方”を対象しています。



がん ホーム	気になる健康	健康診断の結果のチェック	病気と診断された	治療を受けている	治療が終わったら	病気とともに生きる	
--------	--------	--------------	----------	----------	----------	-----------	--



あなたの大腸がん治療ポータル

▶ あなたの受けている治療について

あなたが受けている治療の解説と症状への対応のヒントをお示します。



▶ 自分にあった治療を考える

セカンドオピニオンについて説明します。



▶ がんと上手につき合う

同じ病気の患者会や地域のがんサロン、がんの保障制度をご紹介します。



このPDFでは『治療の詳細』について説明します。

『つらい症状』以降の項目は後編をご覧ください。

がん ホーム	気になる健康	健康診断の結果のチェック	病気と診断された	治療を受けている	治療が終わったら	病気とともに生きる
--------	--------	--------------	----------	----------	----------	-----------



▶ 治療について ▶ 自分に合った治療 ▶ がんと上手に付き合う

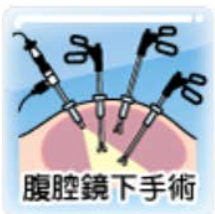
あなたが受けている治療について



治療について詳しくご説明します。



部位と進行度に応じて、
がん周辺の胃とリンパ節を切り取る手術です。



小さな穴からカメラとメスを差し込み、開胸せずに
がんを取り除きます。



内視鏡を使い、
手術せずにがんを取り除きます。



胃の外の臓器に広がったがんを切り取る手術です。



手術後に全身に潜んでいるがん細胞を破壊
します。



抗がん剤により、がん細胞の増殖をおさえます。



放射線を患部に直接あてて、がん細胞の増殖を止めます。



つらい症状をやわらげる治療を行います。

がん ホーム	気になる健康	健康診断の結果のチェック	病気と診断された	治療を受けている	治療が終わったら	病気とともに生きる
--------	--------	--------------	----------	----------	----------	-----------



▶ 治療について ▶ 自分に合った治療 ▶ がんと上手に付き合う

治療の詳細



●●● 部位と進行度に応じて、
がん周辺の胃とリンパ節を
切り取る手術です。



胃の3分の2以上とリンパ節を取り除く“定型手術”です

治癒を目的として、がんを含めた周囲の胃を切除する標準的な治療法です。基本的に、胃の3分の2以上と転移または転移の疑いのあるリンパ節を同時に取り除きます(定型手術)。通常よりも狭い範囲の手術を縮小手術、広い範囲の手術を拡大手術と呼びます。どこを切除するかで、さまざまな手術方法があります。手術後は、いくつかの方法で切り口を結び付けます(消化管再建)。場合によっては、すべての胃を取り除くことがあります。がんは、リンパ管を通してからだの周囲へと広がっていきます。胃がんの手術では、進行度に見合った範囲のリンパ節も同時に切除します。



ステージにより治療の効果は異なります



10～15%の方に何らかの合併症がみられ 手術後には後遺症が現れます

手術を受けた方の約10～15%で何らかの合併症が発生します*1。
主な合併症としては、**縫合不全**や吻合部狭窄(ふんごうぶきょうさく:縫い合わせた部分の消化管が狭くなる)、**膵液漏**(すいえきろう:すい臓から分泌液が漏れる)などがあります。
手術後の後遺症として、消化不良やカルシウム吸収不全による骨の障害、**ダンピング症候群**、**逆流性食道炎**、貧血などが見られます。
手術後および入院中に死亡する方の割合は、胃全摘後で1%、幽門(胃の出口)側胃切除後で0.2%です。

縫合不全(ほうごうふぜん)

手術の時に縫い合わせた臓器が、正しくつかず一部または全部がはがれてしまうことを縫合不全と言います。
手術を担当した医師の技術不足だと思われるがちですが、栄養不足や血行不良など、医師の技術とは無関係なさまざまな要因によって縫合不全が起こります。

膵液漏(すいえきろう)

胃の切除後2週間程度が経つと、膵臓から出ている膵液という消化液が漏れ出してくることがあります。膵臓は胃の近くにあり、目に見える傷がなくても膵液漏が起こることがあります。1～2週間の入院により治療が可能です。

ダンピング症候群(だんびんぐしょうこうぐん)

胃がんの手術後には、食物が胃を経過せず急速に小腸に送り込まれるため、通常よりも濃い食物が小腸に流れ込みます。初期のダンピング症候群では、腸の中の濃度を下げようとして体の水分が腸の中に集まり、一時的に血液が減少したのと同じ状態になります。症状は、動悸や立ちくらみ、めまい、吐き気などです。後期ダンピング症候群では、インスリンがたくさん作られすぎることによって血糖が異常に下がり、発汗や疲労感、立ちくらみ、めまいなどの症状が現れます。症状の改善のためには、ゆっくりと(1時間半以上かけて)食事をしたり、1回の食事量を減らして回数を増やす(1日5回程度)などの工夫が必要です。血糖値が下がった場合には、チョコレートや飴を食べると症状が改善するため、常に持ち歩くと安心です。

逆流性食道炎(ぎゃくりゅうせいしよくどうえん)

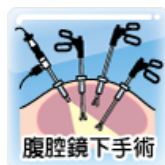
噴門(胃の入り口)の機能が低下したため、胃液が食道に逆流して炎症を引き起こした状態を言います。胃全体を切除した場合、胃液は作られませんが、胆汁や膵液が逆流して炎症を起こすことがあります。

がん ホーム	気になる健康	健康診断の結果のチェック	病気と診断された	治療を受けている	治療が終わったら	病気とともに生きる
--------	--------	--------------	----------	----------	----------	-----------



▶ 治療について ▶ 自分に合った治療 ▶ がんと上手に付き合う

治療の詳細



… 小さな穴からカメラとメスを差し込み、開腹せずにがんを取りのぞきます。



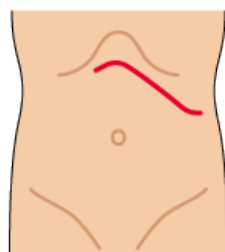
腹腔鏡(腹部専用の内視鏡)でお腹の中を観察しながら、数カ所の小さな穴から器具を入れて手術を行う方法です

開腹手術(お腹を切り開いて行う通常の手術)に比べて、手術による体への負担が少なく、手術後の回復が早いいため、手術件数は増加しています。胃がんの手術方法のひとつとして全国で約20%の患者さんに用いられています*1。

しかし、開腹手術との比較が十分になされていないため、標準的な手術方法として認められていません*2。ステージIの胃がんに対して、試験的に行うべき治療(臨床研究)と位置付けられています*2。

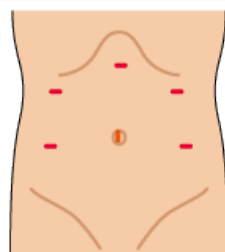
十分な経験を持つ医療機関での安全性は確認されていますので、主治医と納得がいくまでよく話し合った上でこの治療を受けるようにしましょう。

一般的な開腹手術の手術跡



約30cm

腹腔鏡手術の手術跡



0.5~1.2cm



腸の動きの再開が早く入院日数が短くなります

術後の腸の動きが早く、食事の再開が開腹手術より早くなります。そのため入院日数も短くなります*3。痛みが少ないため、翌日から歩けるようになる方がほとんどです*3。

ただし、通常の手術と比較して、明らかに腹腔鏡手術の治療効果が高いという証拠は得られていません*2。



実施できる医療機関は限られています

開腹手術に比べて、手術時間が1~2時間ほど長かかります。

腹腔鏡に熟練した医師と高度な設備を必要とするため、腹腔鏡手術を行うことができる医療機関は非常に限られています。

資料

*1 内視鏡外科手術に関するアンケート調査—第9 回集計結果報告。日鏡外会誌2008;13:500-604。

*2 胃癌治療ガイドライン 医師用 2010 年 第3 版

*3 がんサポート情報センター 胃がん腹腔鏡手術

がん ホーム	気になる健康	健康診断の結果のチェック	病気と診断された	治療を受けている	治療が終わったら	病気とともに生きる
--------	--------	--------------	----------	----------	----------	-----------



▶ 治療について ▶ 自分に合った治療 ▶ がんと上手に付き合う

治療の詳細



… 内視鏡を使い、手術をせずにがんを取り除きます。



広がりの少ないがんを通院か数日の入院で治療します

内視鏡は、先端に付いたレンズを使って胃の中を観察するための医療器具です。広がりの少ないがんは、内視鏡の先端に付いている専用の処置具で切り取ったり、剥ぎ取って治療することができます。内視鏡治療では、目で見たがんの形態により、内視鏡的粘膜切除術(EMR)と内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)という2種類の方法を使い分けます。通常、通院か数日の入院で治療することができます。

内視鏡的粘膜切除術(EMR)

がんの部分の粘膜の下へ生理食塩水を注入してがんを盛り上げらせ、輪状のワイヤー(スネアといいます)を引っかけてがんを焼き切ります。外来治療ができ、入院の必要はありません。



内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)

EMRは治療が比較的短時間で済みますが、一度に切り取ることができる病変がスネアの大きさ(約2cm)までと制限があります。これに対し、ESDでは専用の処置具を使い、より広範囲に病変を切り取ることが可能です。しこりの周辺や粘膜の下に隆起剤(ヒアルロン酸ナトリウム溶液)を注入して、患部を盛り上げさせた後、専用の電気メスで少しずつしこりはぎ取ります。通常、EMRでは一度に切除できないような大きながん(2cm以上)や潰瘍のあるがんに適応します。



リンパ節転移の有無は事前に判断することができないため、内視鏡治療で切り取ったがん組織を調べて、さらに外科手術を行う必要があるかを検討します。



開腹せずにがんを取り切れる可能性があります

お腹を開いて手術することなく、がんをとり切れる可能性があります。取ってきたしこりを顕微鏡で調べることで、手術の必要性を判断することができます。



胃の壁に穴が開いてしまうことがあります

あまり深いところまで取り除こうとすると、胃の壁に穴が開いてしまうことがあります(穿孔:せんこう)。あくまでも、浅い部分に止まっているがんの治療に限られます。

がん ホーム	気になる健康	健康診断の結果のチェック	病気と診断された	治療を受けている	治療が終わったら	病気とともに生きる
--------	--------	--------------	----------	----------	----------	-----------



▶ 治療について ▶ 自分に合った治療 ▶ がんと上手に付き合う

治療の詳細



す

合併切除前

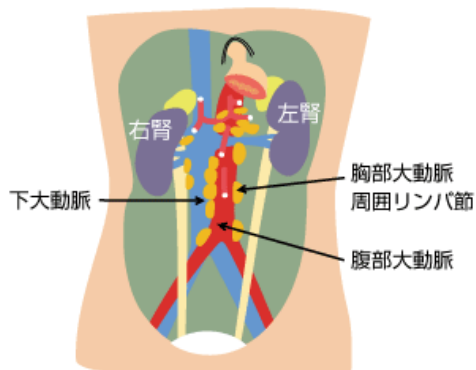
結腸の合併切除後

リンパ節の拡大郭清

拡大郭清の際に取り去るリンパ節



胃と癌が浸潤している結腸の一部を切除します



通常の手術と比較して、明らかに合併手術の治療効果が高いという証拠は得られていません*1。



10～15%の方に何らかの合併症がみられます

手術を受けた方の約10～15%で何らかの合併症が発生します*2。

主な合併症としては、**縫合不全**や出血、肺炎、**膵液漏**(すいえきろう: すい臓から分泌液が漏れる)などがあります。

手術後の後遺症として、消化不良やカルシウム吸収不全による骨の障害、**ダンピング症候群**、**逆流性食道炎**、貧血などが見られます。

縫合不全(ぼうごうふぜん)

手術の時に縫い合わせた臓器が、正しくくっつかずに一部または全部がはがれてしまうことを縫合不全と言います。

手術を担当した医師の技術不足と思われるがちですが、栄養不足や血行不良など、医師の技術とは無関係なさまざまな要因によって縫合不全が起こります。

膵液漏(すいえきろう)

胃の切除後2週間程度が経つと、膵臓から出ている膵液という消化液が漏れ出してくることがあります。

膵臓は胃の近くにあり、目に見える傷がなくても膵液漏が起こることがあります。1～2週間の入院により治療が可能です。

ダンピング症候群(だんぴんぐしょうこうぐん)

胃がんの手術後には、食物が胃を通過せず急速に小腸に送り込まれるため、通常よりも濃い食物が小腸に流れ込みます。

初期のダンピング症候群では、腸の中の濃度を下げようとして体の水分が腸の中に集まり、一時的に血液が減少したのと同じ状態になります。症状は、動悸や立ちくらみ、めまい、吐き気などです。

後期ダンピング症候群では、インスリンがたくさん作られすぎることによって血糖が異常に下がり、発汗や疲労感、立ちくらみ、めまいなどの症状が現れます。

症状の改善のためには、ゆっくりと(1時間半以上かけて)食事をしたり、1回の食事を減らして回数を増やす(1日5回程度)などの工夫が必要です。血糖値が下がった場合には、チョコレートや飴を食べると症状が改善するため、常に持ち歩くと安心です。

逆流性食道炎(ぎゃくりゅうせいしょくどうえん)

噴門(胃の入り口)の機能が低下したため、胃液が食道に逆流して炎症を引き起こした状態を言います。

胃全体を切除した場合、胃液は作られませんが、胆汁や膵液が逆流して炎症を起こすことがあります。

*1 胃癌治療ガイドライン 医師用 2010年 第3版

*2 日本胃癌学会編 胃癌治療ガイドラインの解説 一般用 2004年 第2版,P57～59

がん ホーム	気になる健康	健康診断の結果のチェック	病気と診断された	治療を受けている	治療が終わったら	病気とともに生きる
--------	--------	--------------	----------	----------	----------	-----------



▶ 治療について ▶ 自分に合った治療 ▶ がんと上手に付き合う

治療の詳細



手術後に全身に潜んでいる、がん細胞を死滅させます。



がん細胞を破壊する治療法です

化学療法は、化学物質(抗がん剤)を用いてがん細胞を破壊する治療法です。がん細胞だけではなく、活発に働く正常な細胞にもダメージを与えるため副作用を伴います。治療は、効果と副作用のバランスを見て、許容できる範囲を判断しながら行います。

ステージⅡかⅢの胃がん手術後には、TS-1(ティーエスワン)という抗がん剤を使用することが標準的です。



生存期間が延びることが示されています

がんの症状を抑えるだけの治療を比べ、生存期間延びることが示されています*1。

手術できない胃がんにも化学療法を行った場合、がんが小さくなって手術で切除できるようになることがあります*1。

5-FU系薬剤、CPT-11、L-OHPの3種類の抗がん剤を使うことで、生存期間が20カ月以上になるという研究結果があります*1。

ステージⅡ、Ⅲの胃がんの手術後

定期的な検査のみの場合、3年後に再発する可能性は…



100人中 **40人** となっています。



TS-1を1年服用した場合、3年後に再発する可能性は…



100人中 **28人** に減少します。



さまざまな副作用が出る可能性があります

吐き気や食欲不振、下痢、肝機能障害、白血球の減少などの副作用が出る可能性があります。

		飲みはじめ	→ 1週目	→ 2週目	→ 3週目	→ 4週目
検査でわかる副作用	骨髄機能の抑制			白血球減少	貧血(ヘモグロビン減少) 血小板減少	
血液検査	肝機能の障害		AST(GOT)上昇 ALT(GPT)上昇			ビリルビン上昇
自分でわかる副作用	吐き気		食欲不振 口内炎 発疹	下痢 色素沈着		

資料

*1 胃癌治療ガイドライン 医師用 2010年 第3版

がん ホーム	気になる健康	健康診断の結果のチェック	病気と診断された	治療を受けている	治療が終わったら	病気とともに生きる	
--------	--------	--------------	----------	----------	----------	-----------	--



▶ 治療について ▶ 自分に合った治療 ▶ がんと上手に付き合う

治療の詳細



… 抗がん剤により、がん細胞の増殖を抑えます。



転移や再発などがある場合に行う治療です

化学療法は、化学物質(抗がん剤)を用いてがん細胞を破壊する治療法です。全身に効果があるため、転移や再発などでがんが胃の外へ広がっている場合に化学療法を行います。抗がん剤の組み合わせや量にはいくつかの決まったパターンがあり、治療期間や投与経路(点滴か内服か)は抗がん剤の種類によって異なります。

手術で切除しきれない胃がんでは、化学療法によってがんが増えるスピードを抑え、生存期間を延長しながら、がんによるつらい症状をコントロールします。



生存期間が延びることが示されています

がんの症状を抑えるだけの治療を比べ、生存期間延びることが示されています*1。

手術できない胃がんに行った場合、がんが小さくなって手術で切除できるようになることがあります*1。

5-FU系薬剤、CPT-11、L-OHPの3種類の抗がん剤を使うことで、生存期間が20カ月以上になるという研究結果があります*1。



さまざまな副作用が現れます

抗がん剤は、基本的に「増えている」細胞を攻撃するものです。このため、がん細胞だけでなく、増殖の盛んな細胞(口内や胃腸、髪の毛など)にもダメージを与えてしまいます。

効果と副作用とのバランスを見ながら治療を進めていきます。

抗がん剤を使用することで生じる主な副作用としては、食欲がなくなる、だるさ、下痢、皮膚障害、味覚障害などがあげられます*1。

がん ホーム	気になる健康	健康診断の結果のチェック	病気と診断された	治療を受けている	治療が終わったら	病気とともに生きる	
--------	--------	--------------	----------	----------	----------	-----------	--



▶ 治療について ▶ 自分に合った治療 ▶ がんと上手に付き合う

治療の詳細



… つらい症状をやわらげる治療を行います。



生活の質を重視して治療します

がんが進行していたり、他の臓器への転移が見られる場合、がんそのものの治療に加えて、痛みや食事の取りにくさなど、がんに伴って起こるつらい症状をやわらげることで、生活の質を向上させるための治療を行います。

痛みやつらさを「仕方がない」とあきらめるのではなく、つらい気持ちを「ひとに伝える」ことが苦痛をやわらげる第一歩になります。

がんと診断されたとき、治療中、治療後、どんなタイミングでも構いません。

痛みや気持ちのつらさや不安がある場合、いつでも主治医や看護師、相談支援センターに緩和ケアについて相談してみましょう。



「自分らしく過ごす」ための支援をします

ひとりひとりの状態に合わせて、がんによる心と体の痛みをやわらげる治療を行います。

患者さん本人やご家族が「自分らしく」過ごすことを目標にしています。

療養生活を行う上での社会制度の利用方法なども含め、幅広い支援を受けられます。



治療方法によっては別の症状を生じることもあります

つらい症状が身体的なものであった場合、手術、化学療法、放射線療法などを行う場合があります。このとき、目的としたつらさが緩和されても、別の症状が現れる場合もあります。現在のつらさと、今後起こるかもしれない有害事象とのバランスを見ながら治療方法を決めていきます。しっかりと主治医と相談をして、どんな治療を望んでいるかを伝えましょう。

この続きは『胃がんと診断された』
後編をご覧ください。